

学習指導案の形式（例） 小学校国語科

第○学年○組 国語科学習指導案

平成○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名 ○○○○○○○○（教材名、作者・筆署名、出版社名）

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。名称の工夫として、「単元名」には当該単元に位置付ける言語活動を書くことなどが考えられる。

- 2 単元の目標
- 「国語への関心・意欲・態度」に関する目標（例：～をしようとする。）
 - 3領域に関する目標（例：～ことができる。）
 - 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する目標（例：～ことができる。）

◇学習指導要領で示された目標及び内容（指導事項）を踏まえて設定する。
 ◇ねらいを明確にするために、一単元では、育成すべき「国語への関心・意欲・態度」・3領域である「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の五つの観点全てを位置付ける必要はない。「関心・意欲・態度」「3領域のうちから一つ」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の三つの観点に絞ることが望ましい。
 ◇児童の立場で書く。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	○○能力	言語についての 知識・理解・技能
例：～しようとしている。	例：～している。（ ）	例：～している。

◇「2 単元の目標」を踏まえ、見出しのように単元の評価の観点を設定する。
 ◇○○能力の（ ）には、指導事項のカタカナを書く。
 ◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）等を参考にして、当該単元に位置付ける言語活動と取り上げる指導事項に応じて、適切に設定することが望ましい。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	○例：～を音読する。 ～を書く。 ～について話し合う。	○例：～している。 [評価の観点]（評価方法） ◇評価規準は、「3 単元の評価規準」の観点と一致させて書く。 ◇評価時期を考え、バランスよく計画を立てる。 ◇評価方法の具体を書く。 ◇児童の立場で書く。
	2	◇主な学習活動を書く。 ◇児童の立場で簡潔に書く。	
二			
三			

5 指導上の立場

- 単元観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国・県学力調査との関連

◇指導者の立場で書く。

◇単元観・・・本単元で指導する言語能力（指導事項）及び、位置付ける言語活動とその特徴を書く。本単元を取り上げる意義、単元・教材と児童の関係などを書く。
 ◇児童観・・・本単元に関連する興味・関心・意欲、言語能力の定着度、取り組んできた言語活動等について書く。本単元における望ましい児童像などについても書く。
 ◇指導観・・・指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、児童のよさや可能性を生かすような工夫や手だてなどを書く。
 ◇研究主題との関連・・・研究主題の説明を簡潔に書く。研究主題と授業研究における指導仮説との関連などを書く。
 ◇全国・県学力調査との関連・・・現状と課題、課題についての取組を書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

例：～しようとする。～することができる。

- ◇「2 単元の目標」や「3 単元の評価規準」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇児童の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1	○ ◇学習活動に対して主となる指導・支援を書く。	
◇児童の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇児童の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1) (2)で書く。 (2) 例：～を書く。 ～について話し合う。 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って児童の学習活動を具体的に書く。 ◇岡山型学習指導のスタンダードの単元時間の授業5（ファイブ）を参考にする。	○ めあて ◇児童の目的意識のまとめや活動目標など、本時のめあてを書く。 ◇本時で何をどのように学ぶかの見通しがもてるようにする。 ○例：～することで、～できるようにする。 ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ・予想される児童の反応 ・児童一人一人の学習進度に応じた手だて ・児童が主体的に学習を進めるための手だて ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 など ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。	◇本時の目標との整合を図る。 評価の場面は1、2か所。 ◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。 ◇評価の観点を書く。 ◇評価方法を具体的に書く。
3	○例：～を一緒に確認することで、～できるようにする。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される場合における児童への手だてを書く。	○例：～している。 〔評価の観点〕 〔評価方法〕
4	○ まとめ ○ ◇本時に何を学んだのが分かるように整理し、めあてと対応したまとめの文章表現の例を示す。 ◇まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置付ける。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 など
5	○	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿を具体的に書く。